令和７年産
仙台麦作情報
2024.9.12　第1号
宮城県仙台農業改良普及センター
Tel 022-275-8410 Fax 022-275-0296
http://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/

●年内の栽培管理のポイント●

1. 初期生育量の確保 →収量・品質の向上 → **適期播種**
2. 湿害の防止 → **排水対策**
3. 稈の強剛化、 徒長・茎の早立ちの防止 → **麦踏み**

【令和６年産の総括（大麦）】

○気象経過と生育概況

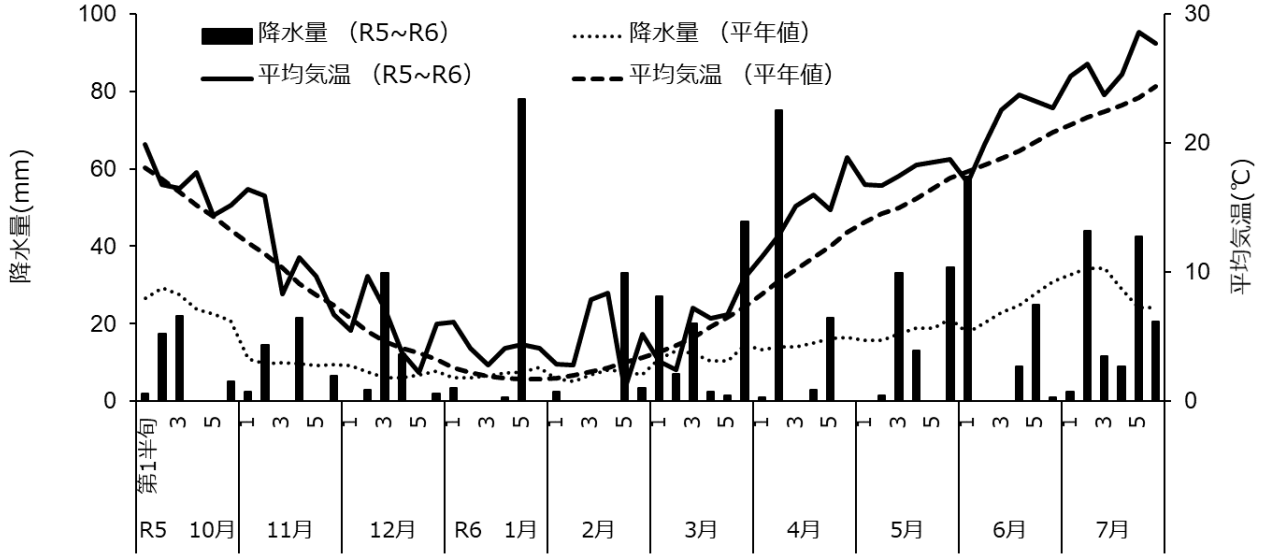


図１　麦作期間における半旬別気象経過（仙台管区気象台：仙台アメダス）

・10 月は平年に比べて多照傾向であった。播種時期後の気温は平年よりやや高く、降水量は平年に比べて少なかった。
・11 月の気温は、概ね平年並かやや高く、降水量は平年よりも多い日があった。11 月は平年に比べて多照傾向であった。
・12 月の気温は、平年並かやや低く、降水量は、第３，４半旬は平年より多くそれ以外は少なかった。
・１月は、気温が１月から２月中旬頃まで平年より高く推移し、２月下旬から３月上旬にかけて気温は平年よりも低く推移した。

・４月は第２、５半旬にまとまった雨があり、気温も平年より高く推移した。
・５月から７月も気温は平年より高く推移し、７月の降水量は平年より比較的多かった。

○収量調査

表１　収量調査結果

ほ場 品種 （地帯区分）	調査年	播種日	出穂期	成熟期	穂数 （本/m²）	稈長 （cm）	穂長 （cm）	全重 （kg/10a）	容積重 （g/L）	千粒重 （g）	精子実重 （kg/10a）
大和町落合報恩時 ホワイトファイバー （北部平坦）	R4~5	10/26	4/18	6/1	391	84	4.4	1,118	690	33	522
	R5~6	10/23	4/19	6/3	1,128	93	4.1	710	634	29	279
仙台市宮城野区岡田 ホワイトファイバー （仙台湾沿岸）	平年値	10/19	4/19	6/2	424	83	4.5	1,016	682	33	456
	R4~5	10/15	4/14	5/30	414	81	4.8	1,018	693	34	593
	R5~6	10/5	4/16	5/26	307	94	4.7	890	678	33	450
仙台市宮城野区岡田 シュンライ （仙台湾沿岸）	平年値	10/19	4/17	6/1	474	85	4.2	1,109	701	36	576
	R4~5	10/16	4/12	5/30	449	86	4.3	1,189	681	34	640
	R5~6	10/5	4/16	5/26	471	94	4.4	1,010	693	34	513

※大和町のホワイトファイバーについては平年値がありません。

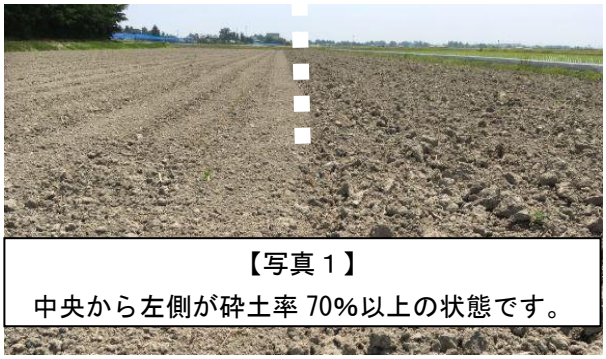
・大和町のホワイトファイバーでは、播種後、高温が続き、生育が旺盛となったことで茎数は過剰に推移し、成熟期の穂数は 1,128 本/㎡と、前年と比較し約３倍となりました。このため、肥料の消費や麦の消耗などにより千粒重は少なく、精子実重は前年より減少しました。また、ネズミムギ（イタリアンライグラス）の影響による倒伏・減収が見られました。
・仙台市のホワイトファイバーは、ハクチョウの食害等により年内生育量が確保できず、前年に比較し穂数 307 本/m^2（前年比 74%）と少なくなり、精子実重も 450 kg/10 a（前年比 76 %）とやや少なくなりました。
・仙台市のシュンライでは、ハクチョウの食害があったものの、成熟期の穂数は 471 本/m^2（前年比 105%）と多くなりました。また、精子実重は前年比 80%の結果となりました。

【令和７年産の栽培管理】

1.ほ場準備

（１）砕土率の向上

・ 直径 2cm 以下の小土塊の作土における比率が 70%以上を目標とします。
→**出芽率向上や除草剤の効果を最大限に発揮**させることにつながります。



【写真１】
中央から左側が砕土率 70%以上の状態です。

・ 粘土質のほ場では、砕土率を高めすぎると播種後の降雨で土がしまりやすくなるので注意が必要です。

（２）排水対策

・出芽前後は湿害を受けやすいので、転換畑では特に、播種前に明きょ・暗きょを施工して排水対策を行いましょう。

○明きょ

・ 額縁に沿って深さ 30～50cm 程度の溝を設けましょう。
・ 明きょと排水溝は、必ず連結させましょう。
・ 排水不良のほ場は、ほ場内にも 5～10m の間隔で明きょを掘り、ほ場外へ排水できるようにしましょう。

○暗きょ

・ 本暗きょと補助暗きょを組合せて施工してください。
・ 補助暗きょは、弾丸暗きょや心土破砕が一般的です。

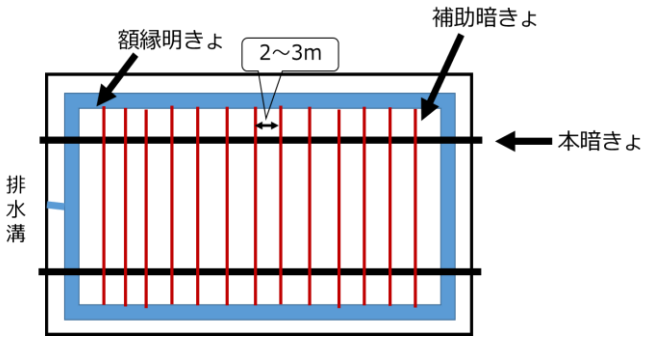


図２　排水施行の例

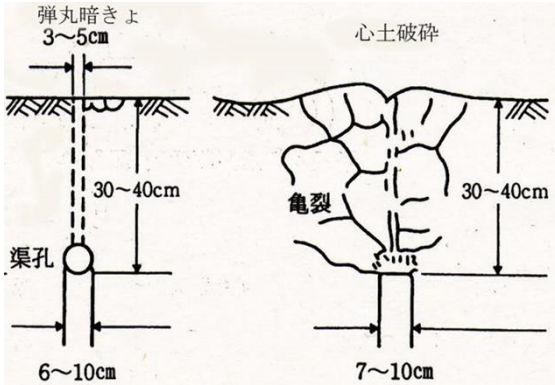


図３　弾丸暗きょ・心土破砕

（３）土づくり

○酸度矯正

・ 大麦では pH 6.1～ 7.0、小麦では pH 5.6～ 6.5 と、微酸性～中性の土壌酸度を好みます。転換畑の土壌酸性は通常 pH 5.0～ 6.0 程度なので、酸度矯正は小麦より大麦でさらに重要となります。

○地力増進

・ 堆肥等を投入し、地力維持に努めましょう。
・ 有機物は土壌の物理性の改善、微生物の増殖、緩効的養分供給の効果があります。

（4）基肥

・「稲は地力で、麦は肥料でつくる」と言われるように、麦には稲より多量の肥料が必要です。麦の生育期間は長く、冬期に生育が一時停滞するため、麦の施肥は生育ステージに応じた必要量を分施するのが基本です。
・基肥では越冬前の生育量を確保し、越冬後の追肥では穂数の増加や１穂粒数・千粒重を高める効果があります。
・基肥標準施肥量（10a 当たり）
N（窒素）：8～10kg、　P（リン酸）：8～10kg、　K（カリウム）：10kg
・**稲わらを鋤き込んだほ場では、 窒素を 1～2 割増で施用**してください。
・基肥を増量することによる生育促進効果は低いため、播種が遅れた場合でも、 上記の基肥標準施肥量の範囲で施用し、 増量はせず、生育の調整は追肥で行いましょう。

2. 播種

（1）適期播種

播種適期
仙台地域…**10 月 15～20 日**頃（晩限：10 月 30 日）
黒川地域…**10 月 5～10 日**頃（晩限：10 月 20 日）

・秋雨等により、ほ場の条件に恵まれず播種遅れとならないよう、適期になり次第いつでも播種ができるよう早めに準備を進めましょう。
・播種が遅れると、様々な影響が懸念されます。

○播種遅れによる影響
播種の遅れは出芽の遅れにつながり、以下のような影響があります。
・初期生育量の不足　・根張りの不良　・茎数不足
・出穂のバラつき　　・未熟粒の発生等
→結果として、収量と品質の低下につながります。
→適期播種を行い、越冬前に十分な生育（特に茎数）を確保しましょう。

※越冬前の目標茎数（目標収量 500kg/10a）：400～500 本/m²
気温の高い播種適期のうちに播種をすることで、分げつを確保しやすく、目標茎数の確保が容易になります。

（2）播種量と播種深

・播種量：250 粒/m²（重量換算したものを、表 2 に示します。）
・播種方法：ドリル播き
・条間：20～25cm、播種深：3cm が目安。

※播種が遅れてしまった場合は、初期生育不良で 1 粒当たりの有効分げつ（茎数）が確保できないので、播種量を増やすことで出芽本数の確保に努めましょう。

表 2 播種量の目安

	品種	千粒重 （g）	播種量 kg/10a
大麦	シュンライ	38.8	9.7
	ホワイトファイバー	36.5	9.1
	ミノリムギ	37.6	9.4
小麦	シラネコムギ	42.7	10.7
	夏黄金	40.4	10.1

3. 雑草防除

・ 令和 6 年産においては、イタリアンライグラス（ネズミムギ）などの雑草が多く発生しているほ場がありました。**必ず土壌処理剤を散布しましょう**。
・ 土壌処理剤の効果を上げるためには、ほ場の砕土率を上げ、播種後早めの散布（出芽前まで）をしましょう。また、適度な土壌水分の時に散布しましょう。
・ 土壌が乾燥していると土壌処理剤が拡散しにくく、効果が低下します。土壌が乾燥気味の場合は、農薬の登録範囲内で水量を多くして散布しましょう。

4. 麦踏み（踏圧）

・ 麦踏みは、他の作物には見られない、生育調節のための重要な管理作業です。特に冬期の乾燥、強風、暖冬時には、麦踏みの効果が高く現れます。
・ 遅播きの場合は、麦の生育量が足りず茎が折損する恐れがあります。過湿ほ場の場合は、耕土を固結させて根の発育を阻害する可能性があります。いずれも逆効果となるので、**麦の生育状況とほ場の状況に御注意ください。**

表 3 麦踏みの効果

	効果
○土壌	霜害・干害による被害の軽減 強風による土移動の軽減と防止
○麦	耐寒性・耐干性の強化 徒長や茎の早立ちの防止 分げつの増加 穂揃いの均一化 稈の強剛化

・ 麦踏みの時期は、一般的には離乳期（3～4 葉期）から茎立ち前（主稈長が 2cm 程度で、その際の幼穂長は 2mm 程度）までとなります。
・ １回目の麦踏みは、ほ場に凍結層ができる前（12 月上中旬）に行います。また、生育のバラツキを解消するためには、生育が再開する起生期（3 月上中旬頃、平均気温 4℃）以降に行いましょう。幼穂長が 3mm 以上の時期より後に麦踏みを行うと、麦の生育にとって有害な生育抑制効果が強くなるため、注意が必要です。
・ **年内に麦踏み可能な姿とするためには、適期播種が必須です。**
・ **「ホワイトファイバー」は、 麦踏みを確実に実施しましょう。**
「ホワイトファイバー」は、「シュンライ」と比べて、多収であり品質も優れますが倒伏しやすいです。

■令和６年秋の農作業安全確認運動実施中（令和６年９月１日から令和６年 11 月 30 日まで）
運動スローガン　「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」

◆安全フレームを必ずたてる。→転落・転倒時に安全域にとどまれる確率が高い！
◆シートベルト、ヘルメットを着用する。→シートベルト着用で死亡事故の発生を低減。
◆ほ場周辺の危険箇所の確認・改善と危険回避行動を！→可能な場合は危険箇所を明示。
◆危険箇所では減速・迂回を！